

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 国語 科目 論理国語

教科：国語 科目：論理国語 単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ H 組

使用教科書：（「論理国語」三省堂） 補助教材 （「定番小説選」数研出版、「国語便覧」桐原書店）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	領域			評価規準	該当に○			配当 時数
		話・聞	書	読		知	思	態	
〔単元名〕論理国語へのいざない 論理の組み立てと文章構成の関係について理解させる。	(1)読むこと 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈すること。				【知】 文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めようとしている。				3
	(2)「納得の構造」渡辺雅子 ・一人1台端末の活用 等		○	○	【思】 文章の種類を踏まえて内容や構成論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握しようとしている。	○	○	○	
〔単元名〕芸術について考える 登場人物の心情を多角的に捉え、自らの生き方を深める。	(1)読むこと 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めること。				【知】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めようとしている。				12
	(2)①「ミロのヴィーナス」 清岡卓行 ②「山月記」中島敦 ・一人1台端末の活用 等		○		【思】 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしようとしている。	○	○	○	
中間考査						○	○		1
〔単元名〕「情報社会」を生きる 都市生活における自己と他者の関係について考える。	(1)読むこと 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握すること。				【知】 情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使おうとしている。				8
	(2)「ぬくみ」鷺田清一 ・一人1台端末の活用 等		○		【思】 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。	○	○	○	
期末考査						○	○		1

1 学期

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	領域			評価規準	該当に○			配当 時数	
		話 聞	書	読		知	思	態		
2 学 期	〔单元名〕「情報社会」を生きる 都市生活における自己と他者の関係について考える。	(1)読むこと 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。 (2)「こころ」夏目漱石 ・一人1台端末の活用 等			○	【知】 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。 【思】 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価しようとしている。 【主】 教材の内容に関心を持とうとしている。発表の態度は積極的で、ほかの人の発表も注意深く聞き、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。	○	○	○	10
	〔单元名〕生命について考える	(1)書くこと 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。 (2)「動的平衡」福岡伸一 ・一人1台端末の活用 等			○	【知】 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。 【思】 情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえようとしている。 【主】 論理的な文章や実用的な文章を読み、その内容や形式について、批評したり討論しようとしている。	○	○	○	8
	中間考査					○	○		1	
	〔单元名〕市民社会について考える 市民社会における「権利」と「義務」について考える。	(1)読むこと 文章の構成や論理の展開、表現の仕方について、書き手の意図との関係において多面的・多角的な視点から評価すること。 (2)「であること」と「すること」丸山真男 ・一人1台端末の活用 等			○	【知】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めようとしている。 【思】 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【主】 進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習課題に沿って、資料との関係を把握して内容や構成を的確に捉え、自分の考えを論証したり討論したりしようとしている。	○	○	○	12
	期末考査					○	○		1	
3 学 期	〔单元名〕市民社会について考える 「市民社会」についての自分の考えをまとめ、討論する。	(1)書くこと 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。 (2) 「懐疑をいかに乗り越えるか」橋爪大三郎 「樺燦」梶井基次郎 ・一人1台端末の活用 等			○	【知】 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章野中で使うことを通して、語幹を磨き語彙を豊かにしようとしている。 【思】 人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めようとしている。 【主】 進んで主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深め、学習の見通しをもって、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結びつけ、新たな観点から自分の考えを論証したり討論したりしようとしている。	○	○	○	12
	学年末考査					○	○		1	

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語 科目：古典探究 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（「古典探究」第一学習社、「国語便覧」桐原書店）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】 言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 古典探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	領域			評価規準	該当に○			配当 時数
		話・聞	書	読		知	思	態	
〔単元名〕説話Ⅰ ・名な和歌にまつわる話を読み説話とし語り伝えられた背景事情について理解を深める。	(1)古今著聞集 橘逸勢 「小式部内侍が大江山の歌の事」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	3
〔単元名〕説話Ⅰ	(1)沙石集 無住道暁「歌ゆゑに命を失ふこと」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	3
中間考査						○	○		1
〔単元名〕項羽と劉邦 登場人物の描写を読み解くことを通じて、戦乱の時代を生きた人々の人物像について考察を深める。	(1)「鴻門の会」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思】「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	10
〔単元名〕竹取物語 ・平安初期に書かれたつくり物語の場面設定や心理描写を読み味わい、その伝奇性を生み出した古人の想像力に触れる。	(1)「かぐや姫の昇天」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	10
期末考査						○	○		1

1
学
期

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	領域			評価規準	該当に○			配当 時数
			話・ 聞	書	読		知	思	態	
2 学 期	〔単元名〕物語Ⅱ 歴史物語という、実際の歴史に取材した物語を読み、宮中を中心とする力者たちの姿の一端に触れる。	(1)大鏡「花山天皇の出家」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	7
	〔単元名〕諸家の思想 「論語」と並ぶ儒家の古典である「孟子」を読み、古代中国思想について理解を深める。	(1) 孟子「性善」 老子「小国寡民」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えることができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	7
	中間考査						○	○		1
	〔単元名〕日記 ・晩年になってまとめられた自伝的日記を読み、少女時代の自分を客観的に見つめた作者像に触れる。	(1)更級日記 ・「門出」 ・「源氏の五十余巻」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えることができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	7
	〔単元名〕諸家の思想	(1) 荘子 「混沌」 「尾を塗中に曳く」 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 【思】「読むこと」において、文章の構成、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	7
	〔単元名〕名家の文章 ・史伝の背景を理解し、漢文の世界に親しむ。 ・史伝に描かれた登場人物の言動・心情・考え方や生き方を学ぶ。	(1) 売油翁 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 【思】「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	6
期末考査						○	○		1	
3 学 期	〔単元名〕物語 ・長編物語のストーリーをたどりながら、「源氏物語」の話の展開の仕方や心理描写の巧みさをとらえる。	(1)源氏物語 ・「光る君誕生」 ・「若紫」 ・音読をして、文体の特徴について理解する。 ・敬語や音便についての理解を深める。 ・それぞれの場面での登場人物の心情の読み取りを深める。 (2)教科書・国語便覧・ICT機器	○	○	○	【知】言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 【思】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基的に的確に捉えることができる。 【主】言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、学習の見通しをもって思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉を効果的に使おうとしている。	○	○	○	7
	学年末考査						○	○		1

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 公民科 科目 公共

教科：公民科 科目：公共 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（「詳述公共」実教出版）

教科 公民科 の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解するとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
<p>【単元名】公共的な空間を作る私たち</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの体験などを振り返ることを通じて、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解する。 ・人間は社会的な存在であり、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解する。 ・自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解する。 	<p>(1)ガイダンス、青年期の意義、青年期と自己形成の課題、職業生活と社会参加、日本思想 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など</p>	<p>【知】公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して、社会に参画する自立した主体としての人間の在り方について理解している。</p> <p>【思】社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主】人間としての生き方や在り方について関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。</p>	○	○	○	10
定期考査			○	○		1
<p>【単元名】公共的な空間における人間としての在り方生き方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方について理解する。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現する。 	<p>(1)ギリシャ思想、三大宗教、帰納法と演繹法、義務論と功利主義、実存主義、構造主義、公正と正義 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など</p>	<p>【知】選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方について理解している。また、諸資料から選択・判断に必要な情報を読み取る技能を身に付けている。</p> <p>【思】思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、様々な主張や利害の絡み合いや倫理的な判断の対立がもたらす課題解決の困難さを生み出している現代社会の複雑な状況を単純化して課題の本質を的確に捉え、人間としての在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主】現代に起こる問題について、人間としての在り方生き方に関する考え方を活用して主体的に解決策を構想したり、選択・判断したりしようとしている。</p>	○	○	○	10
<p>【単元名】公共的な空間における基本的原理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各人の意見や利害を公平・公正に調整することを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。 	<p>(1)ヒューマニズム、形式的平等と実質的平等、公共の福祉、他者危害原理、世代間倫理 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など</p>	<p>【知】人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。</p> <p>【思】公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主】自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体となることに向けて、幸福、正義、公正などに着目して、主体的に課題を追究したり解決したりする活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	6
定期考査			○	○		1

1学期

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	〔単元名〕民主国家における基本原理 ・人権保障の発展がどのようになされたかについて理解し、民主政治の原理とその確立について理解する。 ・民主主義の形態と多数決原理について理解し、現代民主政治における課題を考察する。 ・権力分立の意義を理解し、議院内閣制や大統領制の違いなどを踏まえて政治制度を考察する。	(1)政治とは、国家とは、市民革命と社会契約説、法の支配と基本的人権の保障、議会制民主主義、多数決の原理、議院内閣制と大統領制 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など	【知】法の支配や基本的人権などの民主国家における基本原則を理解し、それに関連する諸資料から必要な情報を正確に読み取っている。 【思】民主主義の基本原則に基づきながら民主政治に必要な要素や課題について多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 【主】民主政治を機能させるために必要な制度・しくみや、国民に求められる姿勢について主体的に考えようとしている。	○	○	○	4
	〔単元名〕日本国憲法の基本的性格 ・日本国憲法の原理や最高法規性などを理解し、立憲主義の意義について考察する。 ・憲法9条をはじめとする日本の平和主義に関する規定を理解し、それに基づく安全保障政策の内容と変化について考える。 ・基本的人権の内容を理解し、人権保障の考え方がどのように広がっているのかを考察する。	(1)明治憲法と日本国憲法、平和主義と安全保障、基本的人権の保障 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など	【知】日本国憲法の原理や内容について理解し、どのような権利が保障されているのか憲法の条文から読み取っている。 【思】過去の判例や近年の人権問題について、憲法が保障する内容と関連付けながら考えることを通じて、法の意義や役割について考察する。 【主】現代における人権問題や安全保障問題について法的な見方・考え方を活用して主体的に考えようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	〔単元名〕日本の政治機構と政治参加 ・権力分立制にもとづく日本の政治機構について理解する。 ・地方自治や選挙制度、政党政治の特質について理解し、政治参加の意義を考察する。	(1)国会・内閣・裁判所、地方自治、選挙制度、政党政治、政治参加と世論 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など	【知】日本の政治機構は三権分立のもとに作られており、それぞれの機関がどのような権限と責任をもつのか理解している。また地方自治のしくみや意義、選挙制度とその課題を理解している。 【思】民主政治の実現に不可欠な地方自治や選挙がより機能するために必要なことを多面的に考察し、適切に表現している。 【主】政治参加について意欲的に追究し、主権者としての意識をもって日本の政治参加に関する課題を考えようとしている。	○	○	○	7
	〔単元名〕現代の経済社会 ・資本主義経済の変遷と特質を理解し、市場メカニズムなどがもたらす効率的な資源配分と社会への影響について考察する。 ・市場の失敗などの問題について多面的・多角的に考察し、その解決を担う政府の経済活動を理解する。	(1)資本主義経済の成立、市場メカニズム、独占と寡占、企業の役割、金融機関のはたらき、財政・租税の役割 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など	【知】現代の経済体制を理解し、グラフや資料などからその特質を読み取っている。また、自由主義経済や資本主義経済がもたらす弊害について理解する。 【思】資本主義経済がもたらす課題と原因について多面的に考察し、その解決に向けて政府などの機関が行うべきことを適切に表現している。 【主】経済活動が社会にとって必要であることを認識し、その上でよりよい経済活動を行うために必要なことを主体的に考えようとしている。	○	○	○	7
定期考査			○	○		1	
3 学 期	〔単元名〕経済活動の在り方と国民福祉 ・日本経済の問題点について理解し、その解決策について構想する活動を通じて多面的・多角的に考察する。 ・今後の日本経済の在り方について他者と議論しながら考察し、自分の考えを相手に適切に伝え、表現する。	(1)食料・農業問題、中小企業問題、消費者問題、雇用・労働問題、社会保障問題 (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など	【知】日本経済が抱える問題について理解し、その現状と課題を諸資料から適切に読み取る。 【思】各主題について、「公共の雇」で学んだ概念や理論を活用しながら多面的・多角的に考察し、問題解決を構想している。 【主】経済的主体としてどのように社会とかわるべきかについて主体的に考え、そのために必要な知識や考え方を身につけようとしている。	○	○	○	7
	〔単元名〕国際政治・経済の動向と課題 ・国際政治や国際経済の動向を理解し、課題を考察する。 ・具体的な主題を設定し、公共的な見方・考え方を活用しながら探究する。	(1)国際政治機構、国際平和への課題、貿易と為替、南北問題、国際紛争、SDGsなど (2)教科書、資料集、用語集、授業プリント、ワークシート、CYOD端末など	【知】諸資料から必要な情報を選択・判断し、国際政治経済の動向を適切に理解する。 【思】設定したテーマに関連する情報をもとに、公共的な見方・考え方を活用して問題解決を構想し、適切に表現している。 【主】世界の政治・経済に関わる問題を自分事として捉え、主体的に情報を収集し、学習しようとしている。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学Ⅱ

教科：数学 科目：数学Ⅱ 単位数：4 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（数研出版 数学Ⅱ）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】基本的な概念や原理等を体系的に理解し、事象を数学的に表現・処理する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】数学の良さを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度を身に付ける。

科目 数学Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・様々な関数や微積分についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と社会生活の関わりについて認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	事象を数学的に表現し考察する力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
〔単元名〕 第1章 式と証明 第1節 式と計算 様々な式と計算について理解する。	(1)3次式の展開、因数分解。二項定理。多項式の割り算。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】式と計算についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に計算を行うことができる。 【主】式と計算に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	8
〔単元名〕 第2節 等式と不等式の証明 等式、条件付き等式、不等式を証明できる。	(1)等式、不等式の証明。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】証明についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に証明できる。 【主】等式と不等式の証明に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	12
〔単元名〕 第2章 複素数と方程式 複素数の四則演算を習熟させる。 因数定理を用いた3次方程式、4次方程式の解法を理解する。	(1)複素数。解と係数の関係。剰余の定理。因数定理。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】複素数の計算についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切にいろいろな高次方程式の解を求められる。 【主】複素数と方程式に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	8
定期考査			○	○	○	1
〔単元名〕 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 直線の方程式、円の方程式について理解する。	(1)内分点、外分点。直線の方程式。円の方程式。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】図形と方程式についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に図形の方程式を求めることができる。 【主】図形と方程式に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	8
〔単元名〕 第3節 軌跡と領域 与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。 不等式で表される領域を図示することができる。	(1)軌跡。不等式の表す領域。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】軌跡と領域についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に軌跡や領域を求めることができる。 【主】軌跡と領域に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	12
定期考査			○	○	○	1

1
学
期

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	〔単元名〕 第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理 三角関数を含む方程式・不等式の 計算を習熟させる。	(1)弧度法。三角関数の値。三角関 数を含む方程式・不等式。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】三角関数についての基本的概念や原理 を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 三角関数の値を求められる。 【主】三角関数に興味関心を持ち、積極的に 問題を解決しようとしている。	○	○	○	8
	〔単元名〕 第2節 加法定理 加法定理から導かれる公式を利用 して三角関数を含む方程式・不等 式を解くことができる。	(1)加法定理。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】加法定理についての基本的概念や原理 を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 加法定理を用いることができる。 【主】加法定理に興味関心を持ち、積極的に 問題を解決しようとしている。	○	○	○	14
	〔単元名〕 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 指数関数を含む方程式・不等式を 解くことができる。	(1)指数法則。指数関数のグラフ。 指数関数を含む方程式・不等式。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】指数関数についての基本的概念や原理 を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 指数関数を用いることができる。 【主】指数関数に興味関心を持ち、積極的に 問題を解決しようとしている。	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
	〔単元名〕 第2節 対数関数 対数関数を含む方程式・不等式を 解くことができる。	(1)対数の値。対数関数のグラフ。 対数関数を含む方程式・不等式。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】対数関数についての基本的概念や原理 を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 対数関数を使える。 【主】対数関数に興味関心を持ち、積極的に 問題を解決しようとしている。	○	○	○	10
	〔単元名〕 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 微分係数や導関数の意味を理解 し、それらを求めることができ る。	(1)微分係数。導関数。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】導関数についての基本的概念や原理を 理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 導関数を利用できる。 【主】導関数に興味関心を持ち、積極的に問 題を解決しようとしている。	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
3 学 期	〔単元名〕 第2節 導関数の応用 1 接線 2 関数の値の変化 接線の方程式を求めることができ る。3次関数や4次関数のグラフ をかくことができる。	(1)接線。3次関数、4次関数のグ ラフ。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】接線についての基本的概念や原理を理 解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 接線を求めることができる。 【主】接線の方程式に興味関心を持ち、積極 的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	16
	〔単元名〕 3 最大値・最小値 4 関数のグラフと方程式・不等 式 関数の値の変化を調べ、方程式や 不等式を解くことができる。	(1)最大値・最小値。実数解の個 数。3次不等式。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】最大値・最小値についての基本的概念 や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 最大値・最小値を求めることができる。 【主】最大値・最小値に興味関心を持ち、積 極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	10
	〔単元名〕 第3節 積分法 1 不定積分 2 定積分 不定積分、定積分の意味を理解し それらを求めることができる。	(1)不定積分。定積分。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】積分法についての基本的概念や原理を 理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 積分法を使える。 【主】積分法に興味関心を持ち、積極的に問 題を解決しようとしている。	○	○	○	8
	〔単元名〕 3 面積 定積分を利用して、曲線や直線で 囲まれた図形の面積を求めるこ とができる。	(1)曲線や直線で囲まれた図形の面 積。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】定積分を用いた面積の計算についての 基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に 定積分の計算を行うことができる。 【主】定積分を用いた面積の計算に興味関心 を持ち、積極的に問題を解決しようとしてい る	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 数学 科目 数学B

教科：数学 科目：数学B 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（数研出版 数学B）

教科 数学 の目標：

【知識及び技能】 基本的な概念や原理等を体系的に理解し、事象を数学的に表現・処理する技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力を身に付ける。

【学びに向かう力、人間性等】 数学の良さを認識し、積極的に数学を活用しようとする態度を身に付ける。

科目 数学B の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と社会生活の関わりについて認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることに関する技能を身に付けている。	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。	・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善しようとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
〔単元名〕 第1章 数列 第1節 数列とその和 1 数列 2 等差数列とその和 等差数列の一般項とその和を求めることができる。	(1)数列、等差数列、等差数列の性質、等差数列の和、いろいろな自然数の数列の和 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】等差数列についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に等差数列の一般項及びその和を求められる。 【主】等差数列に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	4
〔単元名〕 3 等比数列とその和 等比数列の一般項とその和を求めることができる	(1)等比数列、等比数列とその和 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】等比数列についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に等比数列及びその和を求められる。 【主】等比数列に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	6
〔単元名〕 4 和の記号Σ 5 階差数列 6 いろいろな数列の和 シグマの扱いを習熟させる。部分分数、等差数列×等比数列の和、群数列を理解する。	(1)累乗の和、和の記号Σ、Σの性質、階差数列、数列の和と一般項、和の求め方の工夫、群数列 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】Σの計算についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切にいろいろな数列の和を求められる。 【主】いろいろな数列の和に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	4
定期考査			○	○	○	1
〔単元名〕 7 漸化式と数列 数列の帰納的定義について、その意義と数列の作り方を理解する。	(1)漸化式、漸化式で定められる一般項、漸化式的应用 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】漸化式についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に漸化式を処理することができる。 【主】漸化式に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	4
〔単元名〕 8 数学的帰納法 自然数の性質などを見出し、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較して多面的に考察する力を身につけさせる。	(1)数学的帰納法による等式・命題・不等式の証明。漸化式と数学的帰納法。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】数学的帰納法についての基本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切に数学的帰納法を用いることができる。 【主】数学的帰納法に興味関心を持ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○	○	1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	〔単元名〕 第2章 統計的な推測 1 確率変数と確率分布 2 確率変数の期待値と分散 確率変数・確率分布について、具 体例を多く取り上げる。期待値・ 分散の計算に習熟させる。	(1)確率変数と確率分布。確率変数 の期待値・分散・標準偏差。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】確率変数についての基本的概念や原理 を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に確率変数の期待値・分散・標準偏差を求めら れる。 【主】確率変数に興味関心を持ち、積極的 に問題を解決しようとしている。	○	○	○	4
	〔単元名〕 3 確率変数の変換 4 確率変数の和と期待値 5 独立な確率変数と期待値・分 散 期待値・分散計算の反復練習を指 導する。確率変数の独立を十分に 理解させる。	(1)確率変数の変換。和の期待値。 確率変数の独立。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】確率変数の変換・独立性についての基 本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に確率変数の変換・独立性を用いることができ る。 【主】確率変数の変換・独立性に興味関心 を持ち、積極的に問題を解決しようとしてい る。	○	○	○	7
	〔単元名〕 6 二項分布 7 正規分布 正規分布の定義と、期待値・標準 偏差について理解する。	(1)二項分布。二項分布の平均と分 散。正規分布。二項分布の正規分 布による近似 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】二項分布・正規分布についての基本的 概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に二項分布・正規分布を使える。 【主】二項分布・正規分布に興味関心を持 ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1
	〔単元名〕 8 母集団と標本 9 標本平均とその分布 具体例により直観的に理解させ ると同時に、その活用について概念 を指導する。	(1)全数調査と標本調査。母集団分 布。復元抽出。標本平均の期待 値・標準偏差・正規分布。大数の 法則。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】母集団・標本・分布についての基本的 概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に母集団・標本・分布を利用できる。 【主】母集団・標本・分布に興味関心を持 ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	5
	〔単元名〕 10 推定 11 仮説検定 理解のみでなく、推定するという ことの数学的、論理的な意味を理 解させたい。検定の手続きについ ても同様である。	(1)母平均の推定。母比率の推定。 仮説検定。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】推定・仮説検定についての基本的概念 や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に推定・仮説検定を利用できる。 【主】推定・仮説検定に興味関心を持ち、積 極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	6
定期考査			○	○	○	1	
3 学 期	〔単元名〕 第3章 数学と社会生活 1 数学を活用した問題解決 問題解決において、より良い結果 が得られるよう、過程は適切に立 てられるようにする。	(1)数学を活用した考察の方法。利 益の予測。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】数学的に考察する手順についての基 本的概念や原理を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に数学的に考察する手順を用いることができ る。 【主】数学的に考察する手順に興味関心を持 ち、積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	8
	〔単元名〕 2 社会の中にある数学 新聞やテレビ、インターネットな どで見るさまざまな数値につい て、数学的な定義や意味を理解さ せるようにする。	(1)選挙における議席配分。偏差 値。スポーツの採点競技。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】日常生活や社会において、数値で判 断したり評価している状況を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に数値で判断したり評価することができる。 【主】日常生活や社会において、数値で判 断したり評価していることに興味関心を持ち、 積極的に問題を解決しようとしている。	○	○	○	5
	〔単元名〕 3 変化をとらえる～移動平均～ 時系列データを折れ線グラフに表 し、その変化の傾向を考察する。	(1)移動平均。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】移動平均についての基本的概念や原理 を理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に移動平均を使える。 【主】移動平均に興味関心を持ち、積極的 に問題を解決しようとしている。	○	○	○	4
	〔単元名〕 4 変化をとらえる～回帰分析～ さまざまなデータを散布図で表 し、2つの変量の関係性を近似的 に関数で表す方法について理解さ せる。	(1)回帰直線。最小2乗法。 (2)教科書、副教材、ICT端末	【知】相関と回帰分析の基本的概念や原理を 理解している。 【思】論理的に考察し、目的に応じて適切 に相関と回帰分析における数的処理を使える。 【主】相関と回帰分析における数的処理に興 味関心を持ち、積極的に問題を解決しようと している	○	○	○	7
	定期考査			○	○	○	1

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 地理・歴史 科目 世界史探究

教科: 地理・歴史 科目: 世界史探究 単位数: 3 単位

対象学年組: 第2学年 A組～F組

使用教科書: (『詳説世界史 世界史探究』山川出版社)

教科 地理・歴史 の目標:

- 【知識及び技能】 世界史の通史を通して、世界の諸地域の特性とその歴史を理解する。また諸資料を読み解き、その情報を活用し、まとめる技能を身につける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 歴史の起因、背景、展開、課題を、地誌やグラフ等の資料、歴史史料などを通して読み取り、歴史的考察を行い、また課題解決に向けて構想し、それらを説明したり発表する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 授業において、発問に対して積極的に解答し、また歴史の展開や影響について思考をめぐらし、主体的に学ぼうとする姿勢を育てる。

科目 世界史探究 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・定期考査、小テストを行って知識の理解度を測る。 ・発問などで、資料を読み取る力を測る。	・授業での発問とその解答を評価する。 ・プリントにまとめた歴史的考察の記述を評価する。	・授業中の学習活動を評価する。 ・課題の提出、発表などの内容と取り組みを評価する。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
〔単元名〕世界へのまなざし	(1)世界史探究のガイダンス及び歴史学習についての説明 (2)資料集、プリント、パワーポイントのスライド、世界史用語集など	【知】歴史総合のガイダンスをしっかりと聞いているか。 【思】歴史を学ぶ意義を理解できているか。 【主】学び取ろうとする姿勢は見られるか。	○	○	○	1
〔単元名〕第I部 諸地域の歴史的 特質の形成 第1章 文明の成立と古代文明の特 質～第2章 中央ユーラシアと東ア ジア世界	(1)諸文明の成立、古代オリエ ント、南アジア、中国、南北アメリ カ文明の歴史を扱う。 (2)資料集、プリント、パワーポイ ントのスライド、世界史用語集な ど	【知】地誌の要因、文明成立の過程、その展 開や特徴、影響を理解しているか。 【思】地図や画像、史料を活用して、歴史的 な諸事象を多角的に捉えられているか。 【主】主体的に学習活動に参加し、アクティ ブラーニングや課題にも積極的に取り組んだ か。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1
〔単元名〕第I部 諸地域の歴史的 特質の形成 第2章 中央ユーラシアと東アジア 世界～第4章 西アジアと地中海周 辺の国家形成	(1)中央ユーラシア、秦・漢、中国 動乱の時代、東アジア文化圏の成 立、南アジアの統一国家と宗教の 成立、東南アジア、イラン諸国家 の興亡、ギリシア人の都市国家の 歴史を扱う。 (2)資料集、プリント、パワーポイ ントのスライド、世界史用語集な ど	【知】各地域の地理的な把握、中国王朝の特 徴と東アジア世界の成立、南アジア統一国家 や宗教、西アジア、ボリスの成立について展 開とその影響を理解しているか。 【思】資料を活用して、歴史的な諸事象を多 角的に考え、捉えられているか。 【主】主体的に学習活動に参加し、歴史的な 思考や課題にも積極的に取り組んだか。	○	○	○	11
定期考査			○	○		1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	〔単元名〕第Ⅰ部 諸地域の歴史的特質の形成 第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成～第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	(1)古代ギリシアの展開、ローマの発展とキリスト教、イスラーム教の成立と発展、ヨーロッパ世界の形成の歴史を取り扱う。 (2)資料集、プリント、パワーポイントのスライド、世界史用語集など	【知】ギリシアとローマの民主化と発展、キリスト教とイスラーム教の成立と発展、中世ヨーロッパ世界について、その展開や影響を理解しているか。 【思】資料を活用して、歴史的な諸事象を多角的に考え、捉えられているか。 【主】主体的に学習活動に参加し、歴史的な思考や課題にも積極的に取り組んだか。夏季休業中の課題は取り組めたか。	○	○	○	7
	〔単元名〕第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向～第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	(1)イスラーム世界の拡大と西アジア、西ヨーロッパ封建社会、東ヨーロッパ世界、西ヨーロッパ封建社会の変容の歴史を取り扱う。 (2)資料集、プリント、パワーポイントのスライド、世界史用語集など	【知】イスラーム世界の発展、西欧封建社会の成立とその展開、東欧世界の特徴、西欧封建社会の変容について、その過程や結果、影響を理解しているか。 【思】資料を活用して、歴史的な諸事象を多角的に考え、捉えられているか。 【主】主体的に学習活動に参加し、歴史的な思考や課題にも積極的に取り組んだか。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	〔単元名〕第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第7章 ヨーロッパ封建社会の変容～第9章 大交易・大交流の時代	(1)西ヨーロッパ中世文化、アジア諸地域の自立、宋～大モンゴル帝国、アジア交易の発展、ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸の歴史を取り扱う。 (2)資料集、プリント、パワーポイントのスライド、世界史用語集など	【知】西欧中世文化、アジア諸地域の自立、宋～モンゴル帝国の中国、アジア交易の発展、ヨーロッパの海洋進出とアメリカ大陸について、特徴や歴史の展開、その後の影響を理解しているか。 【思】資料を活用して、歴史的な諸事象を多角的に考え、捉えられているか。 【主】主体的に学習活動に参加し、歴史的な思考や課題にも積極的に取り組んだか。	○	○	○	14
定期考査			○	○		1	
3 学 期	〔単元名〕第Ⅱ部 諸地域の交流・再編 第10章 アジアの諸帝国の繁栄～第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	(1)オスマン帝国とサファヴィー朝、ムガル帝国の興隆、清代の中国と周辺諸地域、ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、オランダ・イギリス・フランスの台頭、北欧・東欧の動向の歴史について取り扱う。 (2)資料集、プリント、パワーポイントのスライド、世界史用語集など	【知】オスマン帝国の発展、サファヴィー朝・ムガル帝国、清代の中国と周辺諸地域、ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、蘭・英・仏の台頭と抗争、北欧・東欧について、その特徴や展開、影響を理解しているか。 【思】資料を活用して、歴史的な諸事象を多角的に考え、捉えられているか。 【主】主体的に学習活動に参加し歴史的な思考やまとめ、課題にも積極的に取り組んだか。冬季休業中の課題内容は取り組めたか。	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 地理・歴史 科目 日本史探究

教科 地理・歴史 科目 日本史探究 単位数 3 単位

対象学年組 第 2 学年

使用教科書 (『詳説日本史』山川出版社)

教科 地理・歴史 の目標:

- 【知識及び技能】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、世界史と関連づけながら総合的にとらえて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切に読み取る技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、多面的・多角的に考察したり、考察したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、自国のみならず他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

科目 日本史探究 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・定期考査等で知識の理解度を測る。	・授業での発問とその解答を評価する。	・アクティブラーニングでの活動を評価する。
・資料を用いて読み取り、それをまとめる力を授業中の発問などで測る。	・ノートやプリントにまとめた歴史的事象に対する対照的、また相関的な事象の考察の記述を評価する。	・課題のまとめ、提出、発表などの内容と取り組みを評価する。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
1 学期	第1章 日本文化のあけぼの ①人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ②大陸からの稲作伝播の様子などを踏まえて、弥生文化の形成を理解し、小国が形成される過程を理解するとともに東アジア世界との交流を関連づけて考察する。	(1) 旧石器時代・縄文時代・弥生時代という原始社会の生活について取り上げるとともに、史料を用いて国家の成立と東アジア世界との関りについて考察させる。 (2) 教科書・授業プリントおよびノート・図説・史料集およびパワーポイントのスライド	【知識・技能】 旧石器文化・縄文文化・弥生文化それぞれについて、考古学的知見に基づいて特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 縄文文化や弥生文化への移行について、背景を基に考察し、表現できる。また、国家の成立について史料をもとに考察できる。 【学びに向かう力】 旧石器文化・縄文文化・弥生文化に関する考察に前向きな姿勢で取り組むことができる。	○	○	○	6
	第2章 古墳とヤマト政権 ①古墳の変容等を手がかりにヤマト政権の成立に至る過程・その支配の拡大過程を、東アジア世界との関りを踏まえて理解する。 ②推古朝の政治の目的を東アジア情勢との関係を踏まえて理解する。	(1) 古墳の変容とヤマト政権の成立から拡大および政治制度、さらに推古朝の政治について取り上げる。 (2) 教科書・授業プリントおよびノート・図説・史料集およびパワーポイントのスライド	【知識・技能】 古墳の変遷とヤマト政権の発展を関連付けて理解できる。推古朝を含むヤマト政権の動きを東アジア情勢と関連付けて理解できる。 【思考・判断・表現】 古墳の変遷とヤマト政権の発展、ヤマト政権の動きと東アジア情勢とを関連付けて考察できる。 【学びに向かう力】 古墳文化とヤマト政権の成立・発展について、東アジア情勢にも目配りして前向きにとらえようとしている。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	第3章 律令国家の形成 ①大化改新から天智・天武・持統朝を経て、律令国家体制が成立する過程を理解し、律令によってどのような国家のしくみが成立したのかを理解する。 ②奈良時代の政治過程を通して律令国家の変容・動揺について理解する。 ③天平文化の文化遺産を通じて、この文化の特徴について理解する。 ④平安時代初期の政治過程を通じて、律令国家が崩壊に向かっていく様相を理解する。	(1) 大化改新から律令国家体制の成立に至る過程、あらたな国家体制のもとの奈良時代、さらに平安京に遷都して新たな時代がスタートするも律令国家体制が行き詰まり、崩壊に向かっていく流れについて取り上げる。 (2) 教科書・授業プリントおよびノート・図説・史料集およびパワーポイントのスライド	【知識・技能】 大化改新に始まる律令国家体制の成立過程や律令国家のしくみ、奈良時代から平安時代初期にかけての政治の動きおよびこの時期の文化の特徴について理解できる。 【思考・判断・表現】 史料や図版を基にして律令国家体制の特徴や奈良時代・平安時代初期の政治の動きおよび天平文化の特徴について考察できる。 【学びに向かう力】 大化改新に始まる律令国家の成立過程やそのしくみ、奈良時代から平安時代初期の政治過程や文化の特徴について主体的に把握しようとしている。	○	○	○	13
定期考査			○	○		1	
2 学期	第4章 貴族政治の展開 ①藤原氏による摂関政治の形成過程と平安時代の社会状況について理解する。 ②末法思想や社会不安を背景にして浄土教が拡散したことを理解し、これと関連する文化遺産の特徴を理解する。 ③律令国家体制が崩壊した後に成立するあらたな国家体制・土地制度および武士の登場について理解する。	(1) 藤原氏が政争を通じて摂関政治を確立した過程、その時期の国家体制の変容、文化事象について取り上げる。 (2) 教科書・授業プリントおよびノート・図説・史料集およびパワーポイントのスライド	【知識・技能】 藤原氏による摂関政治の成立の過程と平安時代の社会状況・文化の特徴、さらに地方統治や土地制度の大変革について理解できる。 【思考・判断・表現】 史料や図版をてがかりに藤原氏による摂関政治の成立過程や文化の特徴について考察できる。 【学びに向かう力】 藤原氏による摂関政治の成立過程や複雑な土地制度・地方制度の変革について着実に理解しようとしている。	○	○	○	9

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	<p>第5章 院政と武士の躍進</p> <p>①後三条天皇の政治をさがげとして院政が成立した過程を理解し、さらに院政の諸相について、文化面も含めて理解する。</p> <p>②保元・平治の乱を通して平氏政権が成立した過程を理解し、さらにその政治の特徴を把握する。</p>	<p>(1) 後三条天皇の親政から院政に至る過程、さらにそこから平氏政権が成立する過程およびその特質について取り上げる。</p> <p>(2) 教科書・授業プリントおよびノート・図説・史料集およびパワーポイントのスライド</p>	<p>【知識・技能】院政の成立過程とその特質、平氏政権の成立過程とその特質および同時期の文化について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】史料や図版をてがかりに院政の成立過程とその特質、この時期の文化の特質について考察できる。</p> <p>【学びに向かう力】院政・平氏政権の成立過程・特質について主体的に考察し、理解しようとしている。</p>	○	○	○	4
	定期考査			○	○		1
	<p>第6章 武家政権の成立</p> <p>①鎌倉幕府の成立過程やその発展について理解するとともに、あらたな時代の担い手となった武士の生活について理解する。</p> <p>②元寇を機に幕府の矛盾が噴出して幕府が滅亡に向かっていく過程を、社会の変化を踏まえて理解させる。</p> <p>③鎌倉時代の文化について、仏教を中心に特質を理解する。</p>	<p>(1) 鎌倉幕府の成立・幕府のしくみ・承久の乱を契機とする発展、元寇を機に噴出した諸矛盾および鎌倉時代の文化について取り上げる。</p> <p>(2) 教科書・授業プリントおよびノート・図説・史料集およびパワーポイントのスライド</p>	<p>【知識・技能】鎌倉幕府の成立過程を鎌倉幕府の性質とからめて理解し、幕府のしくみや発展過程、さらに武士の生活や社会の変化・文化の特質を国際情勢にも目配りしながら理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】史料や図版を手がかりに鎌倉幕府の成立過程や変遷、文化の特質について考察できる。</p> <p>【学びに向かう力】鎌倉幕府の成立・発展過程や社会・経済・文化について総合的に考察し、理解しようとしている。</p>	○	○	○	11
定期考査			○	○		1	
3 学 期	<p>第7章 武家社会の成長</p> <p>①建武政権の成立と崩壊から室町幕府の成立を経て、足利義満によって公武一統政権が成立するまでの過程と幕府のしくみやその対外交流について理解する。</p> <p>②経済の発展に伴う民衆の台頭が社会秩序を揺るがし、さまざまなタイプの一揆が起こる中、幕府が弱体化して下剋上が本格化する過程について理解する。</p> <p>③現在の日本文化の源流として特に重視すべき室町時代の文化について、対外交流の視点も交えて理解する。</p> <p>④下剋上の風潮の中で出現した戦国大名について、領国・出自や城下町・分国法などに着目させながら、彼らの持つ特質などを理解する。</p>	<p>(1) 建武政権の成立と崩壊、南北朝の動乱と室町幕府の成立、足利義満による公武一統と幕府のしくみおよび外交、庶民の台頭と一揆、室町幕府の衰退と下剋上、室町文化について取り上げる。</p> <p>(2) 教科書・授業プリントおよびノート・図説・史料集およびパワーポイントのスライド</p>	<p>【知識・技能】建武政権の成立・崩壊から室町幕府の成立、さらにその衰退から戦国の動乱に向かう政治過程を軸に経済の発展とこれに伴う社会の変化、対外交流のあゆみ、さらに文化の特質について理解できる。</p> <p>【思考・判断・表現】史料や図版を基に中世後期の政治過程や社会の変化および文化の特質について考察できる。</p> <p>【学びに向かう力】つかみづらいとされる室町時代について、政治過程を軸に、社会経済をしっかりと関連付け、さらに対外交流や文化の特質にも目配りして考察し、理解しようとしている。</p>	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度(1・2学年用) 教科 理科 科目 化学

教科: 理科 科目: 化学 単位数: 3 単位

対象学年組: 第2学年 C組~ H組(選択)

使用教科書: (数研出版 化学)

教科 理科 の目標:

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、自然の事物・現象を科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学 の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、物質と変化について理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能を身につける。	物質と変化にかかわる事象から問題を見だし、観察、実験などを通して、物質と変化を科学的に探究する力を養う。	物質と変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
【単元名】第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解 1 電池 『化学基礎』で学んだ酸化還元と電子の授受の学習を踏まえ、電気エネルギーを取り出す電池の仕組みについて理解する。	(1)電池の仕組みについて、ダニエル電池・鉛蓄電池・燃料電池などの具体的な構造と正極及び負極において起こる反応について理解する。また、リチウムイオン電池についても理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】電池の仕組みとダニエル電池・鉛蓄電池について両極の反応式について理解する。 【思】鉛蓄電池や燃料電池についてそれぞれの電池で起こる現象が判断できる。 【主】電池について、その構造や両極で起こる反応・現象に興味を持つ。	○	○	○	3
【単元名】第2章 電池と電気分解 2 電気分解 外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを理解する。	(1)水溶液の電気分解を題材として、電気分解を酸化還元反応と関連付けて理解する。また、ファラデーの法則に基づく電気分解の量的関係や電気分解の工業的な利用についても理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】水溶液の電気分解で、陽極および陰極で具体的に起こる反応を理解する。ファラデーの法則を理解する。 【思】ある電解液を電気分解した際の陽極および陰極での反応を反応式で書くことができる。ファラデーの法則に基づき、電気分解の量的関係の計算ができる。 【主】電気分解及びその工業的な利用について興味を持つ。	○	○	○	6
【単元名】第3編 無機物質 第1章 非金属元素 1 元素の分類と周期表 『化学基礎』で学んだ元素の周期律や電子配置に基づき、単体や化合物の性質を理解する。 2,3,4, 水素、貴ガス、ハロゲン、酸素、硫黄	(1)周期表に基づいて、元素の分類や周期性について理解する。 水素、貴ガス、ハロゲン、酸素、硫黄の単体と化合物の性質を理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】元素の分類について理解する。水素、貴ガス、ハロゲン、酸素、硫黄の性質や反応について理解する。 【思】周期表に基づいて、元素の分類や周期性を説明できる。水素、貴ガス、ハロゲン、酸素、硫黄の性質や製法を反応式で説明できる。 【主】元素や周期表、水素、貴ガス、ハロゲン、酸素、硫黄の単体や化合物について興味を持つ。	○	○	○	6
1学期 定期考査						
【単元名】第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 化学反応に伴って放出・吸収する熱をエンタルピー変化で表すことを理解する。	(1)反応エンタルピーの種類とそれぞれの定義について理解する。また、実験により反応エンタルピーを測定できることを理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】化学反応に伴って放出または吸収する熱量をエンタルピー変化を用いて表すことを理解する。 【思】エンタルピー変化を付した反応式を書いたり、反応エンタルピーを求めたりすることができる。 【主】化学反応にかかわるエンタルピー変化に興味を持つ。	○	○	○	4
【単元名】第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 2 ヘスの法則 ヘスの法則とその利用について理解する。 3 化学反応と光 化学反応の前後で光の発生や吸収が起こることについて学習する。	(1)ヘスの法則を用いることで実験で測定が困難な反応エンタルピーを求めることができることを理解する。また、反応の前後における化学エネルギーの差が光の発生や吸収となって現れることを理解する。	【知】ヘスの法則を理解する。 【思】ヘスの法則を理解し、与えられたエンタルピー変化を適切に用いることで、目的のエンタルピー変化を求めることができる。 【主】ヘスの法則およびその利用について興味を持つ。	○	○	○	6
【単元名】第3編 無機物質 第1章 非金属元素 5 窒素・リン 6 炭素・ケイ素	(1)窒素、リン、炭素、ケイ素の単体や化合物の性質を理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】窒素・リンの単体や化合物、特にアンモニアと硝酸の工業的製法を理解する。炭素・ケイ素の単体と化合物について理解する。 【思】ハーバー法、オストワルド法などについてそれぞれの反応式を書くことができる。 【主】窒素、リン、炭素、ケイ素の単体や化合物について興味を持つ。	○	○	○	5
定期考査						1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	〔単元名〕第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 1 有機化合物の特徴と分類 有機化合物の特徴と分類方法を理解する。 2 有機化合物の分析 元素分析と組成式及び分子式の求め方を理解する。	(1)有機化合物の特徴と分類方法(特に官能基による分類)や構造異性体、有機化合物の表し方(分子式、構造式など)について理解する。また、元素分析の手順、組成式及び分子式の求め方で理解する。	【知】有機化合物の特徴について、構造式等も含め理解する。元素分析の手順等について理解する。 【思】有機化合物を骨格や官能基の違いに基づいて分類できる。元素分析の結果から組成式及び分子式を求めることができる。 【主】有機化合物の分類や元素分析に興味を持つ。	○	○	○	4
	〔単元名〕第4編 有機化合物 第2章 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素 有機化合物の基礎となるアルカンについて理解する。 2 不飽和炭化水素 アルケン・アルキンと異性体、性質、反応について理解する。	(1)アルカンの名称と分子式、立体構造、構造異性体について理解する。アルカンの反応についても学ぶ。アルケンでは、名称、分子式の他にシストランス異性体、付加反応について理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】アルカンの例、立体構造、構造異性体、置換反応について理解する。アルケン・アルキンの例や付加反応、シストランス異性性について理解する。 【思】与えられた分子式からアルカンの構造異性体や名称を書きことができる。アルケン・アルキンの反応の反応式を書くことができる。 【主】アルカン、アルケン、アルキンについて興味を持つ。	○	○	○	7
	〔単元名〕第4編 有機化合物 第3章 アルコールとエーテル 1 アルコールとエーテル 酸素を含む有機化合物として、最初にアルコールとエーテルの構造・性質・反応を理解する。	(1)アルコール・エーテルの特徴を理解する。特にアルコールの酸化反応では級数によって生成物が異なることを構造を踏まえながら理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】アルコールの一般式や構造式、名称、分類について理解する。アルコールの酸化反応について理解する。エーテルの性質について理解する。 【思】アルコールを級数や反応性に基づいて分類することができる。アルコールの関連する反応を反応式で表すことができる。 【主】アルコールやエーテルの特徴や反応性について興味を持つ。	○	○	○	3
	定期考査						
	〔単元名〕第4編 有機化合物 第3章 アルコールと関連化合物 2 アルデヒドとケトン アルデヒドとケトンの名称や構造、性質・反応を理解する。	(1)アルデヒドの還元性により銀鏡反応・フェーリング反応が起こることを学ぶ。また、関連するアルコールとの関係を理解する。具体的には化合物の名称やヨードホルム反応についても理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】アルデヒドやケトンの化学式や構造式、名称について理解する。アルデヒドとケトンの反応性、ヨードホルム反応について理解する。 【思】アルデヒドやケトンの反応性に基づき、構造式や名称を書くことができる。 【主】アルデヒドやケトンの特徴やその構造、反応性について興味を持つ。	○	○	○	3
	〔単元名〕第4編 有機化合物 第3章 アルコールと関連化合物 3 カルボン酸 4 エステルと油脂 カルボン酸、エステル、油脂の名称や構造、性質、反応性を理解する。	(1)カルボン酸では名称・分類・構造・性質・反応性を理解する。酸無水物についても学ぶ。エステルはカルボン酸との関係、加水分解、けん化、石鹸や合成洗剤との関係について理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】カルボン酸、エステル、油脂の化学式や名称、性質、反応性について理解する。鏡像異性体について理解する。 【思】カルボン酸、エステルに関する反応式を書くことができる。油脂のけん化に関する計算から分子式や分子量を求めることができる。 【主】カルボン酸、エステル、油脂について興味を持つ。油脂とせっけん、合成洗剤の関係について興味を持つ。	○	○	○	6
	〔単元名〕第4編 有機化合物 第4章 芳香族化合物 ベンゼン環を持つ化合物の構造と性質・反応性を、脂肪族と対比しながら理解する。	(1)芳香族炭化水素、フェノール類、カルボン酸、アミンとアゾ化合物について理解する。特にそれぞれベンゼン環を持つ化合物の構造と性質・反応性を、脂肪族と対比しながら理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】芳香族化合物の構造とその特徴について理解する。芳香族化合物の名称や反応について理解する。 【思】芳香族化合物が関係する反応の化学反応式を書くことができる。 【主】芳香族化合物の特徴や構造、反応性について興味を持つ。	○	○	○	6
定期考査							

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
3 学 期	〔単元名〕第3編 無機物質 第2章 金属元素(1)典型元素 1 アルカリ金属 2 アルカリ土類金属 3 アルミニウム・スズ・鉛	(1)典型金属元素についてもその性質が周期表に基づいて整理できることを理解し、それぞれの典型金属元素の単体や化合物の性質や製法を理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】典型金属の単体や化合物の性質、特徴的な反応について理解する。 【思】典型金属の反応について体系立てた知識を表現できる。特徴的な反応の反応式を書くことができる。 【主】典型金属の単体や化合物について興味を持つ。	○	○	○	4
	〔単元名〕第3編 無機物質 第3章 金属元素(2)遷移元素 1 遷移元素の特徴 2 鉄 3 銅	(1)遷移元素の特徴について、電子配置などに基づいて理解する。そのうえで、鉄や銅の単体・イオン・化合物について、遷移金属に特徴的な複数のイオンの価数と反応性の違い、沈殿反応、錯イオンについて理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】遷移元素にはどのような元素があるか理解する。鉄・銅の単体や化合物の性質を理解する。錯イオンの名称や化学式などについて理解する。 【思】鉄イオン、銅イオンの反応について体系立てた知識を表現できる。錯イオンの名称や化学式を答えることができる。 【主】遷移元素、鉄、銅の単体や化合物について興味を持つ。	○	○	○	4
	〔単元名〕第3編 無機物質 第3章 金属元素(2)遷移元素 4 銀・金 5 亜鉛 6 クロム・マンガン	(1)それぞれの金属の単体や化合物、イオンの性質を理解する。特に亜鉛は両性であること、クロム酸イオンや過マンガン酸イオンは酸化剤であることなどに注目させる。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】それぞれの金属の単体や化合物の性質を理解する。各金属の特徴的なイオンや反応について理解する。 【思】銀イオンの反応について、錯イオンや反応式を書くことができる。亜鉛の単体や酸化物、水酸化物と酸・塩基の反応の反応式を書くことができる。 【主】それぞれの金属の単体や化合物について興味を持つ。	○	○	○	4
	〔単元名〕第3編 無機物質 第3章 金属元素(2)遷移元素 7 その他の遷移金属 8 金属イオンの分離と確認	(1)その他の遷移金属では、貴金属やタングステン、水銀の単体や化合物の性質を理解する。 金属イオンの分離と確認では、それぞれの金属イオンの反応性の違いに基づいて、複数の金属イオンを含む混合溶液から金属イオンを分離する方法を理解する。 (2)教科書、副教材、ICT、モバイル端末	【知】貴金属やタングステン、水銀の性質を理解する。金属イオンの系統分析について、それぞれの操作の意味を理解する。 【思】貴金属などの利用例を、性質と結びつけて理解する。金属イオンの系統分析の考え方をうけて、複数の金属イオンが存在する水溶液から目的の金属を分離・確認することができる。 【主】貴金属や、金属イオンの分離確認に興味を持つ。	○	○	○	3
	定期考査						

【知識及び技能】自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために観察・実験などの技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】自然の事物・現象に主体的に関わり学的に探究しようとする態度を養う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な探究をするために必要な技能を身につける。	学んだことの要点を明確にとらえ、考察し、表現することができる能力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	〔単元名〕 第1編 生物の進化と系統 第1章 生物の進化 第1節 生命の起源と細胞の進化 生命の起源と生物進化の過程について理解させる。	(1)生命の起源に関する考え 化学進化 細胞の進化と地球環境の変化 光合成生物の出現と地球環境の変化 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】生命の起源と生命の変遷を地球環境の変化と関連づけて理解している。 【思】無機物から有機物が生成され、生命の誕生となる化学進化や、生命の起源を考察することができる。 【主】生命の起源と進化について学び、生物進化がどのように起こってきたのか調べようとする。	○	○	○	4
	〔単元名〕 第2節 遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝子の組み合わせができることを理解させる。 遺伝子の連鎖と組換えについて理解させる。	(1)有性生殖・遺伝子型と表現型 染色体と遺伝子・減数分裂・染色体における遺伝子の位置・2組の対立遺伝子が独立の場合と連鎖している場合 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】無性生殖と比較して減数分裂の意義と受精の意義がわかる。遺伝子が独立の時と連鎖の時とに分けて考えることができる。 【思】減数分裂による遺伝子の分配と受精により多様な遺伝子的な組み合わせが生じることについて考えることができる。遺伝の法則を理解し、遺伝子の組み合わせが変わる事を考えることができる。 【主】減数分裂による遺伝子の分配と受精により遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに、遺伝子の連鎖と組換えについても調べようとする。	○	○	○	8
	〔単元名〕 第3節 進化のしくみ 生物進化がどのようにして起こるのか、生物の遺伝と進化の関わりについて理解させる。	(1)塩基配列の突然変異と進化 染色体の突然変異と遺伝子重複 自然選択・集団の遺伝的構成の変化・遺伝的浮動・中立説 分子進化と分子時計 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】進化を裏付ける証拠、生物の変異と進化、自然選択によるしくみがわかる。 【思】遺伝的変異と遺伝子重複の関係がわかる。モデル実験を行い、遺伝子頻度の変化について考えさせる。 【主】進化のしくみがどのように説明されているか調べようとする。	○	○	○	5
	定期考査						1
	〔単元名〕 第2章 生物の系統と進化 第1節 生物の系統 第2節 人類の系統と進化 生物は系統に基づいて分類できること、ドメインという考え方、人類の進化について理解させる。	(1)生物の分類・分類と系統・分子系統樹・3ドメイン説・霊長類の誕生と人類の進化 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】生物の分類と系統の規準がわかる。各ドメインの特徴がわかる。人類の起源と進化がわかる。 【思】生物は系統に基づいて分類ができる。ドメインの特徴を理解し分類できる。 【主】生物の分類の方法、系統を明らかにする方法、現在明らかになっている生物の系統を調べようとする態度が見られる。	○	○	○	10
	〔単元名〕 第2編 生命現象と物質 第3章 細胞と分子 第1節 生物物質と細胞 細胞の内部構造と構成する物質の特徴を理解させる。	(1)生物を構成する物質・細胞・細胞骨格 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】生物体を構成する物質と細胞との関係がわかる。 【思】細胞の内部構造や細胞小器官、細胞骨格、生体膜などの特徴について考えることができる。 【主】細胞小器官や細胞の働きを分子レベルで調べようとする。	○	○	○	4
	〔単元名〕 第2節 タンパク質の構造と性質 タンパク質の構造と性質、および特徴について理解させる。	(1)タンパク質の構造と機能、性質 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】タンパク質の構造や性質についてわかる。 【思】タンパク質の構造から、なぜ 【主】細胞小器官や細胞の働きをタンパク質の分子レベルで調べようとする。	○	○	○	5
	定期考査						1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	〔単元名〕 第3節 生命現象とタンパク質 タンパク質が生命現象を支えていることを理解させる。	(1)酵素と酵素反応、その調節・輸送及び情報伝達に関わるタンパク質 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】タンパク質の構造や生命現象におけるタンパク質の役割がわかる。 【思】酵素が触媒として作用していること、タンパク質が様々な生命現象を支えていることを考えることができる。 【主】細胞小器官や細胞の働きをタンパク質の分子レベルで調べようとする。	○	○	○	4
	〔単元名〕 第4章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 炭酸同化 エネルギーを用いて有機物が作られるしくみを理解させる。	(1)代謝とエネルギーの流れ・ATP・NADP ⁺ ・NAD ⁺ ・FAD・葉緑体の構造・光合成色素・光合成の過程・光合成細菌・化学合成細菌 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】エネルギーの出入りとATPの分解と合成の関係がわかる。二酸化炭素から糖を作る炭酸同化がわかる 【思】光合成の反応系、光合成をする細菌や化学合成細菌について考えることができる。 【主】炭酸同化が果たす役割について関心をもつ。	○	○	○	6
	〔単元名〕 第3節 異化 呼吸や発酵によって有機物からエネルギーが作られるしくみを理解させる。	(1)ミトコンドリアの構造・呼吸の過程・様々な呼吸基質・呼吸商・発酵 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】呼吸のしくみがわかる。発酵との共通点や相違点がわかる。 【思】呼吸のよって有機物からエネルギーが作られるしくみや、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系について考えることができる。 【主】呼吸と発酵の共通点や相違点、反応が複数段階からなることに関心をもつ。	○	○	○	9
	定期考査						1
	〔単元名〕 第3編 遺伝情報の発現と発生 第5章 遺伝情報とその発現 第1節 DNAの複製 第2節 遺伝子の発現 DNAの複製と遺伝子の発現のしくみの概要を理解させる。	(1)DNAの分子構造・半保存的複製のしくみ・RNAの構造・転写・遺伝暗号表・翻訳・原核生物における転写と翻訳 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】遺伝情報の複製のしくみや発現のしくみがわかる。 【思】DNAの複製、遺伝子発現、遺伝子情報の変化、およびゲノムの多様性を考えることができる。 【主】DNAの構造、遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみに関心をもつ。	○	○	○	4
	〔単元名〕 第6章 遺伝子の発現調節と発生 第1節 遺伝子の発現調節 遺伝子の発現が調節されていること、及びそのしくみの概要を理解させる。	(1)調節タンパク質・原核生物における遺伝子の発現調節・真核生物における遺伝子の発現調節 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】原核生物と真核生物との遺伝子の発現調節の違いがわかる。 【思】原核生物と真核生物との遺伝子の発現の違いについて考えることができる。 【主】原核生物と真核生物の発現調節の違いに関心をもつ。	○	○	○	6
〔単元名〕 第2節 発生と遺伝子の発現	(1)動物の配偶子形成・受精と卵割・発生過程における分化と遺伝子の発現調節の関係・カエルの発生過程・形成体と誘導・器官形成と遺伝子の発現調節・ホメオティック遺伝子 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】動物の配偶子形成と受精のしくみ、初期発生の過程、動物の細胞の分化と形態形成がわかる。 【思】配偶子形成と受精の過程、卵割から器官分化、形態形成のしくみについて考えることができる。 【主】発生過程全般について、そのしくみを調べようとする。	○	○	○	10	
定期考査						1	
3 学 期	〔単元名〕 第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 第1節 遺伝子を扱う技術 遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性を理解させる。	(1)制限酵素・ベクター・プラスミド・クローニング・PCR法・遺伝子の研究方法・遺伝子導入実験 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】生物を利用する技術、バイオテクノロジーがわかる。 【思】遺伝子を扱った技術について、その原理と有用性について考察できる。 【主】バイオテクノロジーについて調べようとする。	○	○	○	4
	〔単元名〕 第7章 遺伝子を扱う技術とその応用 第2節 遺伝子を扱う技術の応用 遺伝子を扱う技術の応用例を理解させる。また、遺伝子を扱う際の課題について考えさせる。	(1)食糧生産や医療への応用・遺伝子を扱う際の課題 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】バイオテクノロジーの応用例がわかる。 【思】遺伝子を扱う際の課題について考えることができる。 【主】バイオテクノロジーの応用例を調べ、それらの課題について考えようとする。	○	○	○	6
	〔単元名〕 第4編 生物の環境応答 第8章 動物の反応と行動 第1節 動物の受容と反応 外界の刺激を受容するしくみ、神経の伝導と伝達、神経系のしくみ、効果器の働きを理解させる。	(1)ニューロン・神経系・興奮の伝導と伝達・受容器・中枢神経系・効果器・筋収縮のしくみ (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】動物の刺激の受容、神経の伝導と伝達、受容器と効果器を結びつける神経系の構造や働き、筋収縮がわかる。 【思】受容器の働き、神経のしくみ、効果器の働きを考えることができる。 【主】受容器や効果器の各器官の働きを理解しようとする。	○	○	○	12
	〔単元名〕 第2節 動物の行動 刺激に対する反応としての動物の生得的な行動と、動物が生後に受けた刺激により行動を変える学習行動を理解させる。	(1)生得的行動・習得的行動・ニューロンの活動の変化による行動の変化 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】環境に応じた反応する生得的行動、学習行動がわかる。 【思】動物個体の生得的行動や新しい行動を示す学習について考えることができる。 【主】生まれながらもつ生得的行動と生後の刺激によって変化する学習行動に関心を持つ。	○	○	○	3
定期考査						1	

豊多摩高等学校 令和5年度（1・2学年用）教科理科 科目 物理基礎

教科：理科 科目：物理基礎 単位数：3 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（「高等学校 物理基礎」（第一学習社））

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付ける
- 【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、自然の事物・現象を科学的に探究する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 物理基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
物理学の基本的な原理・法則を理解し科学的な探究をするために必要な知識と技能を養う。	物理現状を原理・法則の側面から正確にとらえ考察し、数学を用いて表現する能力を養う。	レポート、週末課題などに積極的に取り組み、自ら探究活動の課題解決に向けて取り組む姿勢を学ぶ。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
序章物理量の測定と扱い方	(1)物理量の扱い方、単位の扱い方 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】身近な物理現象についての物理量の測定とその表し方を理解している。 【思】単位と計算の関係を理解し数学的に単位を扱うことができる。 【主】身近な単位の換算を行うなど学んだ知識を使い物理量を身近な数値としてとらえることができる。	○	○	○	1
第1章運動とエネルギー 第1節物体の運動 ①速度 ②加速度 ③落体の運動	(1)速さ・速度の計算とベクトル量とスカラー量の計算 速度変化と加速度 落下する物体の運動 相対速度・合成速度 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】ベクトル量とスカラー量の違いを理解し合成や分解ができる。速さや速度等の物理量の定義を理解している。 【思】等速直線運動や等加速度直線運動を数式として扱うことができ、初期条件から後の運動を計算することができる。 【主】実際の運動と関連付けながら物理現象を扱うことができる。	○	○	○	6
第2節力と運動の法則 ①様々な力	(1)力の表し方と種類、重力と弾性力の計算 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】力の定義とその表し方を理解している。 【思】重力や張力の基本計算ができる。 【主】身の周りの力に興味関心を持ち物理現象を理解しようとしている。	○	○	○	5
定期考査			○	○	○	1
第2節力と運動の法則 ②力の合成・分解とつり合い ③運動の3法則	(1)合力の図示と計算、分力の図示と計算、つりあいの式、慣性の法則・運動の法則・作用反作用の法則 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】運動の3法則について理解している。 【思】合力・分力の計算ができそれを運動の法則にあてはめ運動方程式を立てることができる。 【主】実際の運動と関連付けながら運動の3法則について考察している。	○	○	○	5
第2節力と運動の法則 ④運動方程式の利用	(1)運動方程式の適用と斜面上での物体の運動の計算、2物体の運動方程式 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】運動方程式の立て方を理解している。 【思】複数の物体の運動方程式や斜面上の物体の運動の計算ができる。 【主】1物体の運動方程式から2物体の運動方程式を作用反作用の法則を考慮しながら考察している。	○	○	○	5
第2節力と運動の法則 ⑤摩擦を受ける運動 ⑥液体や気体から受ける力	(1)静止摩擦力・最大摩擦力・動摩擦力、圧力、水圧、浮力、空気抵抗 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】摩擦力、圧力、浮力の原理について理解している。 【思】それぞれの力の計算ができ、その計算を運動方程式や力のつりあいの式に応用できる。 【主】これまでに学んできた運動方程式や力のつりあいの計算を利用して考察することができる。	○	○	○	3
定期考査						1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
2 学 期	第3節仕事と力学的エネルギー ①仕事と仕事率 ②運動エネルギー	(1)仕事の計算、仕事の効率(仕事率)の計算、運動する物体のエネルギー (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】仕事とエネルギーの定義を理解している。 【思】仕事、仕事率、運動エネルギーを理解し数学的に計算できる。 【主】仕事とエネルギーに関する演示実験や生徒実験に積極的に参加し実験の記録や考察などを行っている。	○	○	○	4
	第3節仕事と力学的エネルギー ③位置エネルギー ④力学的エネルギー	(1)高い位置にある物体の持つエネルギー、ばねの持つエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、仕事とエネルギーの関係 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】位置エネルギーを理解し、数値的に扱うことができる。 【思】エネルギーを数学的に扱うことができ力学的エネルギー保存の法則やエネルギーと仕事の関係を計算することができる。 【主】エネルギーを身近な物理現象としてとらえ考察することができる。	○	○	○	5
	第2章熱 第1節熱とエネルギー ①熱と温度 ②エネルギーの変換と保存	(1)熱運動、絶対温度とセルシウス温度、熱容量と比熱と熱量、熱量保存、状態変化と熱熱力学一法、熱機関 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】温度が上がると分子原子がどのように運動が変化するかを理解している。 【思】熱量保存、状態変化、熱力学第一法則、熱効率を理解し数学的に計算できる。 【主】熱を身近なエネルギーとしてとらえ、現実の物理現象であるエンジンや蒸気機関等とつなげて考察することができる。	○	○	○	5
	定期考査						1
	第3章波動 第1節波の性質 ①波の表し方と波の要素	(1)縦波と横波、波のグラフ (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】波動の定義について理解している。 【思】波動を表すグラフを数学的にとらえ計算、図示できる。 【主】数学で学んだ知識を利用して考察することができる。	○	○	○	4
	第3章波動 第1節波の性質 ②波の重ね合わせと反射	(1)重ね合わせの原理、定常波、反射(自由端・固定端) (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】波の重ね合わせ、反射について理解している。 【思】重ね合わせ、反射を図示し合成波を作図することができる。 【主】点対称、線対称等の数学の知識を用いて波形を考察することができる。	○	○	○	4
	第3章波動 第1節波の性質 ③波の干渉・反射・屈折・回折	(1)波の性質 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】4つの波の性質を理解している。 【思】波の性質を理解し、干渉や反射によって波形がどのように変化するか重ね合わせの原理から計算することができる。 【主】波の性質を抑え身の周りで波の性質を持つ現象を考察することができる。	○	○	○	4
定期考査						1	
3 学 期	第3章波動 第2節音波 ①音波の性質 ②物体の振動 ③ドップラー効果	(1)音の速さ、音の三要素、音の性質、うなり、物体の固有振動と共鳴、ドップラー効果 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】音の三要素学習、大きさ・高さ・音色がどのように決まるか理解している。 【思】うなり、固有振動、共鳴、ドップラー効果を数学的に計算できる。 【主】共鳴実験などを通して実験の記録や考察を科学的に行っている。	○	○	○	4
	第4章電気 第1節静電気と電流 ①静電気 ②電流と抵抗 ③電気エネルギー	(1)電荷と帯電の仕組み、静電気力、オームの法則、抵抗率と絶縁体、並列回路と直列回路、ジュールの法則と電力 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】静電気とは何かを理解している。また電流の正体について理解している。 【思】オームの法則やジュールの法則を理解し計算することができる。 【主】中学で学んだ電流、電圧、抵抗の内容を発展させ電流の正体や抵抗値の計算等を考察することができる。	○	○	○	3
	第4章電気 第2節電流と磁場 ①磁場 ②モーターと発電機 ③交流と電磁波	(1)磁場と磁力線、右ねじの法則、フレミングの左手の法則、レンツの法則 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】磁場と磁力線を学習し、磁力がどのように働くのかを理解している。 【思】右ねじの法則、フレミングの左手の法則、レンツの法則を学習し磁力線と電流関係を理解し計算することができる。 【主】磁力線と電流の関係からモーター等の身の周りの機器について関心を持ち考察することができる。	○	○	○	3
	第4章電気 第3節エネルギーとその利用 ①太陽エネルギーと化石燃料 ②原子力エネルギー	(1)エネルギーの移り変わりとその利用について、原子力エネルギーと放射線 (2)教科書・副教材・ICT・モバイル端末	【知】エネルギー変換とその利用について理解している。 【思】原子力エネルギーと放射線の関係を学習し原子力の利用について考察することができる。 【主】エネルギー問題についてこれまでに学習してきた知識を用いて考察し自身の意見を持つことができる。	○	○	○	2
	定期考査						1

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（現代高等保健体育 大修館）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能および社会性における健康・安全について理解するとともに技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技術を身につけている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えるなど表現することができる。	生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
〔単元名〕 バレーボール（男）	①パス レシーブ、トスも含む ②スパイク ③サーブ ④ルールの説明 ポジション・安全確認も含む ⑤ゲーム ミニゲーム～通常ルール	【知】 実技テスト など 【思】 実技テスト・振り返りシート など 【主】 振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
〔単元名〕 バドミントン（女）	①ラケットの持ち方 ②フォア・バック・ハイクリア ③軽く打ち合う ④サーブ ⑤ミニゲーム ⑥ゲーム シングル・ダブルス	【知】 実技テスト など 【思】 実技テスト・振り返りシート など 【主】 振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
〔単元名〕 ソフトボール（男女）	①キャッチボール ②バッティング ③ピッチング ④ルールの説明 ポジション・安全確認も含む ⑤ゲーム 特別ルール～通常ルール	【知】 実技テスト など 【思】 実技テスト・振り返りシート など 【主】 振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
〔単元名〕 テニス（男） 前期	①ラケットの持ち方 ②フォア・バック ストローク ③軽く打ち合う ④打ち返す練習 ⑤サーブ ⑥ゲーム シングル・ダブルス	【知】 実技テスト など 【思】 実技テスト・振り返りシート など 【主】 振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
〔単元名〕 アルティメット（男） 前期	①フライングディスクの説明 ②パス ③ルールの説明 ポジション・安全確認も含む ⑤ゲーム 特別ルール～通常ルール	【知】 実技テスト など 【思】 実技テスト・振り返りシート など 【主】 振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
ダンス（女）	①ダンスの説明 ②様々な動き 止まる・走る・跳ぶ ③表現について ④創作活動 ⑤発表	【知】 実技テスト（発表） など 【思】 実技テスト（発表） 振り返りシート など 【主】 振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	12
〔単元名〕 水泳（男女）	①オリエンテーション・水なれ 安全確認・注意も含む ②クロール 泳法 ③平泳ぎ 泳法 ④タイム計測	【知】 実技テスト（タイム計測含む） など 【思】 実技テスト・振り返りシート など 【主】 振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6

2 学 期	〔单元名〕 バスケットボール（男女）	①パス ②ドリブル ③シュート ④ルールの説明 ポジション・安全確認も含む ⑤ゲーム 特別ルール～通常ルール	【知】実技テスト など 【思】実技テスト・振り返りシート など 【主】振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
	〔单元名〕 サッカー（男女）	①パス ②ドリブル ③シュート ④ルールの説明 ポジション・安全確認も含む ⑤ゲーム 特別ルール～通常ルール	【知】実技テスト など 【思】実技テスト・振り返りシート など 【主】振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
	〔单元名〕 テニス（女） 後期	①ラケットの持ち方 ②フォア・バック ストローク ③軽く打ち合う ④打ち返す練習 ⑤サーブ ⑥ゲーム シングル・ダブルス	【知】実技テスト など 【思】実技テスト・振り返りシート など 【主】振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
	〔单元名〕 タグラグビー（女） 後期	①タグラグビーの説明 ②パス ③ルールの説明 ポジション・安全確認も含む ⑤ゲーム 特別ルール～通常ルール	【知】実技テスト など 【思】実技テスト・振り返りシート など 【主】振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
	〔单元名〕 バドミントン（男） 後期	①ラケットの持ち方 ②フォア・バック・ハイクリア ③軽く打ち合う ④サーブ ⑤ミニゲーム ⑥ゲーム シングル・ダブルス	【知】実技テスト など 【思】実技テスト・振り返りシート など 【主】振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
	〔单元名〕 卓球（男） 後期	①ラケットの持ち方 ②フォア・バック ③軽く打ち合う ④サーブ ⑤ミニゲーム ⑥ゲーム シングル・ダブルス	【知】実技テスト など 【思】実技テスト・振り返りシート など 【主】振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
3 学 期	〔单元名〕 持久走	①オリエンテーション 安全確認・注意 含む ②持久走 時間走・タイム計測など ③タイム・記録計測	【知】実技テスト など 【思】実技テスト・振り返りシート など 【主】振り返りシート・授業態度 など	○	○	○	6
	〔单元名〕 体づくり運動 体育理論	①各授業において 各種トレーニングを継続しておこな う。 ②振り返りシートの作成 など ③まとめ			○	○	—
	定期考査						

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健

単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

使用教科書：（現代高等 保健体育 一大修館一）

教科 保健体育

の目標：

【知識及び技能】 健康・安全について理解するとともに知識を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 保健についての自他や社会の課題を発見し合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して健康の保持増進を目指し明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。

科目 保健

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯を通じる健康や保健に関するさまざまな問題に関して、さまざまな社会的な対策が必要であることを理解している。調べ学習や発表の内容を理解しを行うことができる。	生涯を通じる健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断しているとともに、それらを表現している。	生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。調べ学習や発表が上手にできる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
				知	思	態	
1 学期	〔単元名〕 03 生涯を通じる健康 ライフステージと健康 思春期と健康 性意識と性行動の選択 妊娠出産と健康 避妊法と人工妊娠中絶 結婚生活と健康 中高年期と健康 働くことと健康 労働災害と健康 健康的な職業生活	(1) ライフステージと健康の関連や社会からの支援について説明できる。 思春期における体の変化。心の発達に関わる問題。 性情報や性行動の選択について。 妊娠・出産についての健康問題。 家族計画の意義。避妊法について。 心身の発達と結婚生活について。 加齢に伴う心身の変化について。 高齢化社会について。 働き方と健康問題。 労働災害の種類とその原因について。 健康的な職業生活について。 (2) ICTパソコン パワーポイント プロジェクター・タッチペン スクリーン など	【知】 定期考査・小テスト 【思】 学習プリント・ノート提出 【主】 ノート・授業態度	○	○	○	10
	定期考査			○			1
2 学期	発表授業・調べ学習	(1) 保健に関する題材を自ら主体的に調べレポートを作成する。 レポートをもとに発表を行う。 生徒は、発表評価シートをもちいて、それぞれの発表を評価する。 (2)	【知】 定期考査・小テスト 【思】 発表評価表 【主】 ノート・授業態度	○	○	○	13
	定期考査			○			1
3 学期	02 安全な社会生活 自己の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法	(1) 自己の実態と被害の実態について（人的要因・環境要因） 安全を確保するための環境整備 交通事故における責任を3つ説明する。 応急手当と心肺蘇生について説明。 健康を支える環境づくりとして、二兎人が健康に生きていくために、周辺の自然環境や食品に関する健康問題を学び、社会全体の健康を高めるための環境づくりに参加する意識を育む。 (2) ICTパソコン パワーポイント プロジェクター・タッチペン スクリーン など	【知】 定期考査・小テスト 【思】 学習プリント・ノート提出 【主】 ノート・授業態度	○	○	○	5
	04 健康を支える環境づくり 大気汚染と健康 水質汚濁・土壌汚染と健康 環境と健康 ゴミ処置と上下水道 食品と健康 医薬品・保健・医療サービスと活用			○			1

年間授業計画

豊多摩高等学校 令和5年度（1・2学年用） 教科教科 家庭 科目 家庭基礎

教科：教科 家庭 科目：家庭基礎 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組～H組

使用教科書：（家庭基礎 自立・共生・創造 東京書籍）

教科 教科 家庭

の目標：

- 【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活を主体的に営むために必要な理解を図ると共に、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 家庭基礎

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配 当 時 数
			知	思	態	
〔単元名〕 第1章 生涯を見通す	(1) 人生を展望する 目標を持って生きる (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解している。 【思】・生涯を見通した自己の生活について主体的に考え、ライフスタイルと将来の家庭生活及び職業生活について問題を見いだしている。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
〔単元名〕 第2章 人生をつくる	(1) 1 人生を作る 2 家族・家庭を見つめる 3 これからの家庭生活と社会 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。 【思】・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想している。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
〔単元名〕 第9章 経済生活を営む	(1) 1 情報の収集・比較と意思決定 2 購入支払いのルールと方法 3 消費者の権利と責任 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解している。 【思】・自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することについて問題を見いだして課題を設定している。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
1 学期 〔単元名〕 第9章 経済生活を営む	(1) 4 生涯の経済生活を見直す 5 これからの経済生活 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・家計の構造について理解している。 ・家計管理について理解している。 ・生活における経済と社会との関わりについて理解している。 【思】・責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善しようとしている。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて課題の解決に主体的に取り組んだり、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○	○	○	4
〔単元名〕 第8章 住生活をつくる	(1) 1 住生活の変遷と住居の機能 2 安全で快適な住生活 3 住生活の文化と知恵 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解している。 【思】・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、住生活と住環境について、課題の解決に主体的に取り組んでいる。	○	○	○	4
〔単元名〕 第8章 住生活をつくる	(1) 4 これからの住生活 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について理解している。 ・適切な住居の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思】・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○		4
定期考査						1

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配 時 数
				知	思	能	
2 学 期	〔単元名〕 第3章 子どもと共に育つ	(1) 1 命を育む 2 子どもの育つ力を知る (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・生涯発達の視点で青年期の課題を理解している。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、子供の生活と保育について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○		○	4
	〔単元名〕 第3章 子どもと共に育つ	(1) 3 子どもと関わる 4 子どもとの触れ合いから学ぶ (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・親の役割と保育について理解している。 【思】・子供の健やかな発達のために地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○		4
	〔単元名〕 第6章 食生活をつくる	(1) 1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・食品の栄養的特質について理解している。・食品の調理上の性質について理解している。 【思】・食品の調理上の性質について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○		6
	〔単元名〕 第6章 食生活をつくる	(1) 3 食生活の選択と安全 4 生涯を見通した食事計画 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・健康や環境に配慮した食生活について理解している。・食品衛生について理解している。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○		○	4
	〔単元名〕 第6章 食生活をつくる	(1) 5 調理の基礎 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・おいしさの構成要素について理解している。・目的に応じた調理に必要な技能を身に付けている。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、食生活と健康について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○		○	8
	定期考査						1
3 学 期	〔単元名〕 第7章 衣生活をつくる	(1) 1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解している。 【思】・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○	○		4
	〔単元名〕 第7章 衣生活をつくる	(1) 4 衣生活の文化と知恵 5 これからの衣生活 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・被服の計画・管理に必要な技能を身に付けている。 【思】・被服の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主】・自身の衣生活に興味関心を持ち、主体的に衣生活を営もうとする。	○	○	○	6
	〔単元名〕 第4章 超高齢社会を共に生きる	(1) 1 これからの超高齢社会 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・高齢者を取り巻く社会環境について理解している。 【主】・高齢者の自立生活を支えるために、家族や地域及び社会の果たす役割の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	○		○	4
	〔単元名〕 第5章 共に生き、共に支える	(1) 1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 (2) 教科書、補助教材、生徒用個人端末、ICT 他	【知】・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【主】・様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、高齢期の生活と福祉について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。	○		○	3
定期考査						1	

豊多摩高等学校 令和5年度（2学年用）教科

総合的な探究の時間 科目 総合的な探究の時間

教科：総合的な探究の時間 科目：総合的な探究の時間

単位数：1 単位

対象学年組：第2学年 A組～H組

教科 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】 予測できない社会の変化や新しい課題に対応するため、主体的に自己や社会の課題を発見し、解決に向けて必要な知識及び技能を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 社会的現実にも照らし、よりよい生き方を選択することができるよう、自己と社会の関わりの中から課題を見出し、情報を集め、整理・分析して、多面的・多角的に考察する力や、考察したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 演習や体験活動に主体的・協働的に取り組むことによって、人間としての在り方生き方に対する自覚を深め、自己の生き方を充実させようとする態度と、互いの良さを生かしながら、社会の一員であることを自覚し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

科目 総合的な探究の時間 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できるようにする。	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容 (1)指導事項 (2)教材・ICT等	評価規準	該当に○			配当 時数
			知	思	態	
【単元名】 ガイダンス 【指導目標】 自らテーマを設定して本格的に探究を進めていく方法と実践を学ばせる。	(1)指導事項 ・1年次の探究活動の振り返り ・レポートの作成方法 (2)教材・ICT等 B Y O D 端末	【知】探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できる。	○			4
【単元名】 探究課題の設定 【指導目標】 自らの興味・関心に基づいたテーマを正式に決定させる。	(1)指導事項 ・興味・関心に基づいた研究テーマの正式決定 ・テーマ設定の理由 (2)教材・ICT等 B Y O D 端末	【思】実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 【主】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。		○	○	6
【単元名】 個人研究（第1ターム）	(1)指導事項 (2)教材・ICT等 B Y O D 端末	【思】実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 【主】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。		○	○	4
【単元名】 個人研究（第2ターム） 【指導目標】 個々の探究活動を推進させる。	(1)指導事項 ・情報の「収集」 ・整理、分析、調査、研究 ・まとめ、表現 (2)教材・ICT等 B Y O D 端末	【思】実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 【主】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。		○	○	5
【単元名】 探究活動と自己理解 【指導目標】 探究活動を通じて自己理解を進め、将来への展望を明確にさせる。	(1)指導事項 ・大学研究による学問分野の把握 ・情報の収集 (2)教材・ICT等 関連書籍 B Y O D 端末	【知】探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解できる。 【主】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。	○		○	4
【単元名】 個人研究（第3ターム） 【指導目標】 研究の途中の点検・修正を経て到達した研究成果をレポートにまとめさせ、研究成果を形にする。	(1)指導事項 ・探究活動中間報告 ・振り返り（中間時点） ・研究の点検・修正 ・レポートの完成・提出 (2)教材・ICT等 B Y O D 端末	【思】実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 【主】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。		○	○	6
【単元名】 探究成果の発表と評価 【指導目標】 研究のまとめと発表を通じて、これまでの研究成果の総括を行わせる。	(1)指導事項 ・レポートを基に研究成果の発表準備 ・プレゼン用ソフトウェア、ポスターセッション等での発表 ・相互評価及び自己評価 (2)教材・ICT等 B Y O D 端末 プレゼン用ソフトウェア	【思】実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。 【主】探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする。		○	○	6